

### 北朝鮮の対日諸工作

#### 情勢

北朝鮮は、平成 22 年 9 月、健康に不安を抱える金正日国防委員長から、金正恩氏への体制移行に向けた動きを表面化させました。これ以降、金正恩氏が金正日国防委員長の現地指導に同行する姿、外国要人との会談に陪席する姿等を内外に示すことで、体制の安定性の誇示と金正恩氏が後継者にふさわしい人物であるとのイメージづくりを推進していました。

一方、北朝鮮は、体制への不満を鬱積させている住民の生活を改善するため、軽工業及び農業の活性化に重点的に取り組んだほか、中国との間で羅先<sup>ラソン</sup>経済貿易地帯等の大型プロジェクトに着工し、積極的な外資誘致を展開しましたが、住民の生活に目に見える変化は生じておらず、状況は依然として厳しいものとみられます。

また、22 年中、韓国哨戒艦沈没事件や韓国・延坪島<sup>ヨンピョンド</sup>に対する砲撃事件を敢行したほか、ウラン濃縮施設の稼働を公式に認めるなど、情勢を緊迫化させましたが、23 年に入ると韓国側に対して対話を呼び掛け、韓国哨戒艦沈没事件等の責任を明確にしないまま南北関係改善を迫りました。しかし、韓国側がこれに応じないとみるや、「(李明博政権を) これ以上相手にしない」旨の声明を発表し、南北関係はこう着状態に陥りました。他方、北朝鮮は、中露との連携をしつつ、前提条件を設けずに六者会合の再開を要求するなど、核放棄に対する個別具体的な対応を明らかにしないまま対話姿勢を表明し、米韓を相手に駆け引きを展開してきました。

なお、23 年 8 月までに、韓国検察当局は、韓国内に地下組織「旺載山<sup>ワンジェサン</sup>」を組織し、韓国の軍事機密、政治・社会情勢等に関する情報を収集、北朝鮮に報告するなどしていたとして、5 人を起訴し、北朝鮮が工作活動に関与していることが明らかになりました。



現地指導を行う金正日国防委員長と金正恩氏(時事)



ロシア・ウランウデ近郊での会談に際し握手するメドヴェージェフ・ロシア大統領と金正日国防委員長(時事)

## 金正日国防委員長の死去

北朝鮮は、23年12月19日、金正日国防委員長の死去を伝えました。その発表の中で、「今日我が革命の陣頭には、主体革命偉業の偉大な継承者であり、我が党と軍隊と人民の卓越した領導者である金正恩同志が立っている」として、**金正恩氏を後継者とする体制に移行した**ことを明示しました。これ以降、マスメディアにおいて、金正恩氏に対し「党と国家と軍隊の英明な領導者」等の呼称を使用し、**金正恩体制確立に向けた大々的な宣伝活動**を行っています。

一方、朝鮮総聯<sup>れん</sup>は、金正日国防委員長の死去を受けて、南昇祐朝鮮総聯中央副議長<sup>ナムスンウ</sup>らを弔意団として北朝鮮に派遣するとともに、12月29日、東京都内において中央追悼式を開催しました。許宗萬朝鮮総聯中央責任副議長<sup>ホジョンマン</sup>は、追悼の辞の中で「総聯活動家と在日同胞は、尊敬する金正恩同志の領導を、主体偉業を代を継いで輝かしく継承完成させていく決定的担保として深く刻んでいます」、「総聯は、尊敬する金正恩同志を團結の中心、領導の中心とする隊伍の一心團結を鉄桶のように固めます」と述べるなど、**北朝鮮と金正恩氏に対する従属性**を表明しました。



哀悼の意を表する金正恩氏(時事)



永訣式で靈柩車に寄り添う金正恩氏(時事)



錦繡山記念宮殿で花輪を献じる南昇祐朝鮮総聯中央副議長(右)(時事)

## 対日諸工作

北朝鮮は、23年中、「労働新聞」等を通じ、日朝関係改善のためには、我が国が「過去の清算」をすることが必要である旨の主張を繰り返し、**我が国の態度を非難**しました。

東日本大震災に際しては、北朝鮮の海外同胞事業局副局长が、「災害を収拾するための闘争を共に広げたいが日本当局が「制裁」を加える中で事情が許されない」と述べるなど、**東日本大震災に絡めて我が国の対北朝鮮措置を牽制**<sup>けん</sup>しました。

朝鮮総聯は、24年の金日成主席<sup>キムイルソン</sup>の誕生100周年を民族最大の行事としたほか、「強盛国家」建設のための支援事業、祖国統一のための政治宣伝事業、対北朝鮮措置の撤回闘争等を指示しており、引き続き、北朝鮮に従いつつ、我が国における諸工作を展開するものとみられます。

## 第3章 外事情勢

### 対北朝鮮措置

政府は、18年10月以降、北朝鮮に係る輸出入等に対し、各種措置を講じています。同月に北朝鮮を原産地又は船積地域とする**全ての貨物の輸入が禁止**されたほか、18年11月からは北朝鮮向けの**奢侈品（ぜいたく品）**の輸出が、21年6月からは北朝鮮向けの**全ての貨物の輸出がそれぞれ禁止**されています。

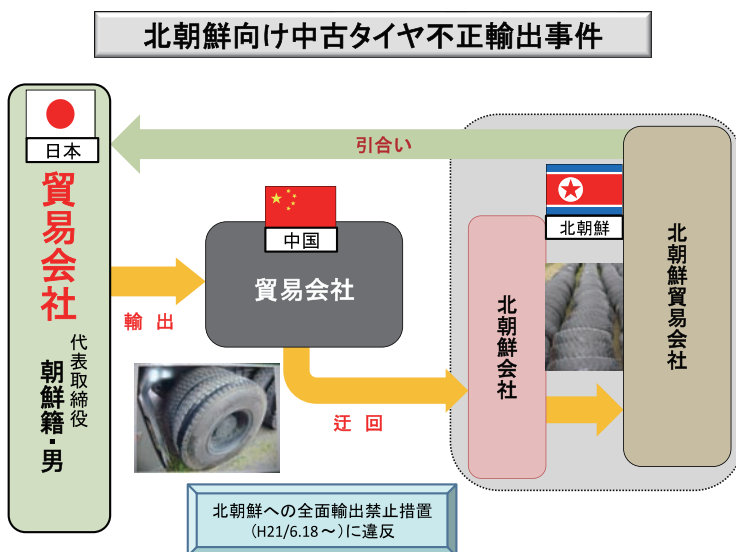
警察では、これらの措置に係る違法行為（大量破壊兵器等の拡散に関する事件を除く。）をこれまで18件検挙しており、23年中には、奢侈品に該当する中古普通乗用自動車を韓国経由で北朝鮮に不正に輸出した事件等**6件を検挙**しました。今後とも、こうした違法行為に対して厳正な取締りを行うこととしています。

#### 〈主な検挙事例〉

- 貿易業経営者らが**ニット生地**を**中国経由**で北朝鮮に不正に輸出した外為法違反事件（2月、大阪）
- 貿易会社代表が**自衛隊車両等の中古タイヤ**を**中国経由**で北朝鮮に不正に輸出した外為法違反事件（5月、京都）
- 生地卸会社の役員らが北朝鮮を原産地とする**ショートパンツ**を**中国経由**で不正に輸入した外為法違反事件（5月、兵庫）
- 貿易会社役員が奢侈品に該当する**中古普通乗用自動車**を**韓国経由**で北朝鮮に不正に輸出した外為法違反事件（6月、警視庁）
- 貿易業者らが**食料品や化粧品等**を**中国経由**で北朝鮮に不正に輸出した外為法違反事件（12月、大阪、愛知、兵庫）
- 貿易会社社長が奢侈品に該当する**たばこ及び清酒**を**中国経由**で北朝鮮に不正に輸出した外為法違反事件（12月、福岡）



輸出された自衛隊車両の中古タイヤ  
(5月、京都)



北朝鮮による拉致容疑事案

北朝鮮の金正日国防委員長は、14年9月に行われた日朝首脳会談において、日本人拉致問題について、「特殊機関の一部の盲動主義者らが、英雄主義に走ってかかる行為を行ってきたと考えている」との認識を示して謝罪し、同年10月には、5人の拉致被害者が帰国しました。

日本人拉致の目的について、金正日国防委員長は「一つ目は、特殊機関で日本語の学習ができるようにするため、二つ目は、他人の身分を利用して南（韓国）に入るためである」と説明しました。また、「よど号」犯人の元妻は、金日



首脳会談を終え握手する小泉首相(当時)と金正日国防委員長(14年9月)(時事)

成主席から「革命のためには、日本で指導的役割を果たす党を創建せよ。党の創建には、革命の中核となる日本人を発掘、獲得、育成しなければならない」との教示を受けた田宮高磨から、日本人獲得を指示された旨を証言しています。

諸情報を分析すると、拉致の主要な目的は、北朝鮮が日本人のごとく振る舞うことができるようにするための教育を行わせることや、北朝鮮工作員が日本に潜入して、拉致した者になりすまして活動できるようにすることなどであるとみられます。

警察は、これまでに、日本人拉致容疑事案12件17人及び朝鮮籍の姉弟が日本国内から拉致された事案1件2人の計**13件19人**を北朝鮮による拉致容疑事案と判断し、北朝鮮工作員等拉致に関与した**8件11人の逮捕状**の発付を得て、国際手配を行っています。

また、北朝鮮による拉致の可能性を排除できない事案があるとの認識の下、告訴・告発や相談・届出に係る事案についても、関係機関との連携の強化を図りつつ、警察の総力を挙げて徹底した捜査や調査を進めています。

	発生時期・場所	被害者※( )内は当時の年齢	国際手配被疑者
1	昭和49年6月 福井県小浜市	コ・キョンミ 高敬美さん(7)、高剛さん(3)	ホン・スヘ 洪寿恵こと木下陽子
2	昭和52年9月 石川県鳳至郡(現 鳳珠郡)	久米 ゆたか 裕さん(52)	キム・セホ 金世鎬
3	昭和52年10月 鳥取県米子市	松本 京子さん(29)	
4	昭和52年11月 新潟県新潟市	横田 めぐみさん(13)	
5	昭和53年6月頃 兵庫県神戸市	田中 実さん(28)	
6	昭和53年6月頃 不明	田口 八重子さん(22)	
7	昭和53年7月 福井県小浜市	地村 保志さん(23) 地村(旧姓:濱本)富貴恵さん(23)	シン・グァンス 辛光洙
8	昭和53年7月 新潟県柏崎市	蓮池 薫さん(20) 蓮池(旧姓:奥土)祐木子さん(22)	通称チェ・スン Chol 通称ハン・クムニョン 通称キム・ナムジン
9	昭和53年8月 鹿児島県日置郡(現 日置市)	市川 修一さん(23) 増元 るみ子さん(24)	
10	昭和53年8月 新潟県佐渡郡(現 佐渡市)	曾我 ひとみさん(19) 曾我 ミヨシさん(46)	通称キム・ミヨンスク
11	昭和55年5月頃 欧州	石岡 とおる 亨さん(22) 松木 薫さん(26)	よりこ 森順子 若林(旧姓:黒田)佐喜子
12	昭和55年6月 宮崎県宮崎市	ただあき 萩晃さん(43)	辛光洙 キム・キルク 金吉旭
13	昭和58年7月頃 欧州	有本 恵子さん(23)	魚本(旧姓:安部)公博

注:地村保志さん、地村(旧姓:濱本)富貴恵さん、蓮池薫さん、蓮池(旧姓:奥土)祐木子さん、曾我ひとみさんの5人については、平成14年10月、帰国した。